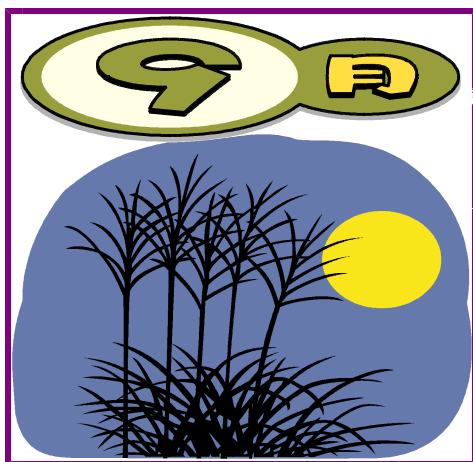


めぐみイエス・キリスト教会

2025年9月14日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第775号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.58 コリント人への手紙Ⅰ 15章 p. 926

【賛美Ⅱ】 新聖歌454「立ちあがれいざ」 p. 730

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書10章38節～42節 (p. 136下段)

【礼拝説教】 《マルタとマリア》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

10:38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。

10:39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主の言葉に聞き入っていた。

10:40 ところが、マルタはいろいろなもてなしのために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」

10:41 主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。

10:42 しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

●ポイント1.ベタニアとは？マルタとマリアと弟ラザロとは？

※ヨハネの福音書11章1節～2節「悩みの家」 (新約p.204)

11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。

11:2 このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。

●ポイント2.「思い煩う」こととは？

※ペテロの手紙第Ⅰ5章7節「ペテロの経験から」(新約p.471)

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

※ピリピ人への手紙4章6節～7節「パウロの勧め」(新約p.399)

4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

◎先週のメッセージ【愛の人とは？】

《この箇所は「良いサマリア人のたとえ」と言われ、ルカだけが書き記しています。「ある律法の専門家」とは、律法学者のことです。

「先生。何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」

「律法には何と書いてありますか。あなたはどう読んでいますか。」

「『あなたは心、命、力と知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」

「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、命を得ます。」しかし彼は再び質問します。「では、私の隣人とは誰ですか。」

また、彼の質問から、「自分は守っているから正しい者だ」と言う自負が伺えるのです。いかに、律法学者が高慢であるかが分かります。

そこで、主イエスは、「良きサマリア人」のたとえを彼に話されます。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったら、強盗に襲われ、倒れていた。そこへ、たまたま祭司が一人、下って来たが見て見ぬふりをして通り過ぎて行ったら。次に来たレビ人も同じようにした。しかし、一人のサマリア人が、強盗にあった人を、介抱し助け出した。この三人の中で誰が、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

「その人にあわれみ深い行ないをした人です。」

「あなたも行って、同じようにしなさい。」

本日のメッセージの中心部分に入ります。このたとえに登場する強盗とは、悪魔と悪霊どもを指しています。また、強盗にあって、すべてを奪われ、殴られ、半殺しにされた者とは、私たち自身なのです。

そして、「良きサマリア人」こそ、私たちの救い主、主イエス様なのです。しかも、そのような瀕死の私たちを見つけ出し、手当てをして下さったのも、主なのです。私たち一人一人は、見つけ出され、助け出された者なのです。その感謝から良い行ないをするべきなのです。》

◎お知らせ

※次回、9月21日第三主日礼拝は、通常通り、午前10時からです。